

こうぐり

土佐の高知の
あぐりのチカラ



特集 県域 担い手サポート 連絡協議会

『家の光三誌』の
読みどころ

編集長に聞く!



広報担当が届ける
こうぐりラム! #43



車を走らせ田んぼ道を通っていると
パツと広がる黄金色の畑。
満開のヒマワリと共に
中土佐町大野見も夏真っ盛り。
太陽に向かい「ニコッ」と
笑っているようなヒマワリが
穏やかな風に揺られている。
その景色を見ていると
自然と心も穏やかになる。

この景色、農作物
ここに暮らす人々を写真に残し
大切にしていきたい

そう思いながら
今日もシャッターを押す。

「高西地区」 野瀬愛未



Instagram: kouguri_official
「こうぐり」インスタグラム毎週、写真を投稿中!
チェックしてくださいね♪

【緊急時の連絡先】 24時間・365日の安心サポート!

- キャッシュカード、通帳、証書、印鑑紛失・盗難時の連絡先
JAバンクキャッシュカード
紛失共同受付センター ☎ 0120-55-3127
- JAカードの盗難・紛失専用ダイヤル
NICOS盗難紛失受付センター ☎ 0120-159-674
- 交通事故(起こしたとき・遭ったとき)
JA共済事故受付センター ☎ 0120-258-931
- ガス漏れ・事故等の緊急時のこと
LPガス集中監視センター ☎ 0120-182-571

編集後記



安芸地区本部
企画組合員課
恒石 明乙羽

お祭りシーズンの夏が来たのも束の間、もうそこに秋が近づいてきていると思うと一年は本当にあっという間に過ぎていきますね。広報担当になってから毎日多くの人との出会いがあり、日常のささいな出来事から「楽しいな」「幸せだな」と感じる瞬間がたくさん転がっていたように思います。

今月の「チクカツ!」では、食農教育を紹介しています。安芸地区では、子どもたちに農産物に対する理解を促進するため出前授業や収穫体験を毎年行っています。試食会で、おいしそうにナス料理を食べる子どもたちの笑顔をシャッターにおさめた時は、「広報をしていて良かったな」と思います。

9月18日は敬老の日。身近な人を大切に、幸せだと思える瞬間に感謝して過ごす一日にしたいですね。



Facebook



とさのさと-JA高知県-



JAグループ高知



耕そう、大地と地域の暮らし。



輝け！新農人 56
 高西地区
 みまのりき
美馬 則貴さん (33)
 [研修2年目]



表紙紹介
土佐岩戸米

高知県は温暖な気候に恵まれ、全国でも最も早く新米を出荷する産地のひとつとなっています。土佐岩戸米(コシヒカリ)が栽培されているのは、小高い山々に囲まれた土佐市岩戸地区。波介川がもたらした豊かな土壌と水が、粘り強く甘みのある米を育みます。



生産者
 [仁淀川地区・土佐市]
 土佐岩戸米営農組合
 のむら ともひと
 左から 野村 智仁さん
 かわざわ かつひろ
 川澤 一裕さん
 のむら かずひと
 野村 和仁さん

土佐岩戸米営農組合は良質な米産地を守ることを目的に平成28年に発足し、現在25人が所属しています。地下水を利用し、減農薬、有機質肥料で水稻を栽培。温暖な地域のため4月に田植えを行い、8月初旬から稲刈りをします。「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」には平成28年の第18回大会から出品しており、7年間で延べ12人が入賞。内、金賞(最優秀賞)を4回受賞し、令和2年から3年連続金賞受賞、さらに昨年は上位3賞を独占する快挙となりました。土佐岩戸米営農組合の米は、土佐市内の学校給食に利用されており、児童からは「おいしいお米が食べれてうれしい」と好評です！

- 03 輝け！新農人 [高西地区] 美馬 則貴さん
- 04 **特集1** 担い手農業者へ支援のエール！
県域担い手サポート連絡協議会
- 08 トップニュース
- 10 地区版 今月の気になる人
- 12 地区版 できごとピックアップ
- 14 地区版 役立つ！得する！情報「えいのう〜」
- 16 地区版 みんなのひろば・お知らせ
- 17 **キクカツ** 安芸地区のあんなこと、こんなことを再発見
- 18 **特集2** **編集長に聞く！**
『家の光三誌』の読みどころ
- 20 *Living with Flower*
 ~花のある暮らし part2~ [フラワーポケットラブ]
- 21 **うちんくの台所** 仁淀川地区編
- 22 **コチットのイチオシ!**
 [土長地区]「いち松」
土佐あかうしローストビーフ丼
- 23 読者プレゼント
- 24 広報担当者が届ける **こうぐらム!**

地域に根付いた農業をしていきたい

昔からの夢である農業の道へ

「学生時代から農業をすることが夢でした」と笑顔で話すのは、農事組合法人藤ノ川ファーマーズで研修2年目を迎える美馬則貴さん。中学生の時、ショウガ掘りの手伝いで作物が成長する姿を見て面白いと感じ、「将来は農業をしたい」と思うようになったそうです。

東京農業大学畜産課を卒業後、地元約四万十町に戻りJAに就職しました。大学で学んだ知識を生かし畜産担当として4年間働き、建築関係の仕事に転職。この頃から、畑を借りて小規模で野菜を育て始めました。自分で育てた野菜を家族や知り合いにあげて喜んでもらった時、「やっぱり農業がしたい！」と決意。JAや知人を通じて交流のあった藤ノ川ファーマーズで研修を受け始めました。

努力が実る嬉しさを実感

体力には自信があったものの、炎天下での草刈りなど夏場のほ場管理は思った以上に大変な作業でした。また、

ドローンを使って除草剤を散布する際には、他の田んぼに飛散しないように気を付けながらの操作に苦戦したという美馬さん。「自分で一から育てた作物が実り、形になった瞬間がとてもうれしい。努力が実った証しでもある」と、大変なこと以上に農業の楽しさを実感しています。

自立した農業経営を目指して

現在は、家畜用の飼料用米や稲発酵粗飼料(WCS)の栽培を学んでいる美馬さん。JAでの畜産担当の経験から、「畜産に重要な飼料用米に携わることが貢献できてうれしい」と、やりがいを感じています。研修2年目は米作りを一から学び、独立後は米を主体にピーマン栽培にも挑戦する予定です。

「研修で学んだ知識を自分のものにし、人との付き合いも大切にしながら地域に根付いた農業をしていきたい」。まだ夢が叶う途中段階ですが、自立した農業経営ができるよう目標に向かってまい進する美馬さんの目はキラキラと輝いていました。



大月支所施設部会・松田哲幸部長(後列左から2番目)と部会員の皆さん、JA職員

活用事例① 新品目・新技術・新作業等導入支援事業

大月支所施設部会(幡多地区) ナスの新品種「PCお竜」の試験栽培

「やまざまな助成制度がある中、今回の取り組みに適應する助成について教えてください」
と話すのは大月支所施設部会の松田哲幸部長。同部会は、「新品目・新技術・新作業等導入支援事業」と幡多地区内の他の助成制度も併用し、受粉なしで果実が実る単為結果性新品種「PCお竜」の試験栽培に取り組みました。
部会員20人中15人が約3.4ヘクタールで栽培しているナス。交配に活用しているハチは、性質上繊細なため温度管理や飼育環境のメンテナンスなど高い管理技術が必要になります。その技術に差が生まれるため一部で反収低下が起こるなど、ハチの管理については部会全体の長年の課題でもありました。松田部長は、交配の必要がない新品種として県内で導入の動きがあった「PCお竜」に着目。
すでに導入していた他産地への視察や種苗会社との情報交換で優れた着果性や秀品率の高さに可能性を感じ、令和4園芸年度に7戸の部会員が試験栽培に取り組みました。
高い秀品率や摘葉・整枝作業は軽減されたうえで収量は維持できるなど、予想以上の結果になった「PCお竜」。松田

新品種導入への挑戦と意識改革
「やまざまな助成制度がある中、今回の取り組みに適應する助成について教えてください」
と話すのは大月支所施設部会の松田哲幸部長。同部会は、「新品目・新技術・新作業等導入支援事業」と幡多地区内の他の助成制度も併用し、受粉なしで果実が実る単為結果性新品種「PCお竜」の試験栽培に取り組みました。
部会員20人中15人が約3.4ヘクタールで栽培しているナス。交配に活用しているハチは、性質上繊細なため温度管理や飼育環境のメンテナンスなど高い管理技術が必要になります。その技術に差が生まれるため一部で反収低下が起こるなど、ハチの管理については部会全体の長年の課題でもありました。松田部長は、交配の必要がない新品種として県内で導入の動きがあった「PCお竜」に着目。
すでに導入していた他産地への視察や種苗会社との情報交換で優れた着果性や秀品率の高さに可能性を感じ、令和4園芸年度に7戸の部会員が試験栽培に取り組みました。
高い秀品率や摘葉・整枝作業は軽減されたうえで収量は維持できるなど、予想以上の結果になった「PCお竜」。松田



受粉なしで果実が実る新品種「PCお竜」

新品種導入の試験栽培 取り組み成果

- ① ハチの管理に対する負担軽減 (温度・環境管理や農薬散布時の巣箱管理など)
- ② ハチの購入経費の削減
- ③ 高い秀品率による作業効率の向上 (摘葉・整枝や粗選果の省力化など)
- ④ データ分析結果による個人の意識改革
- ⑤ 部会内での情報共有の場やコミュニケーションの増加

たに栽培することで情報共有やコミュニケーション

挑戦する気持ちをも後押しする

「試験栽培の結果も良く、部会全体での新品種導入へとつながったが、何よりも大事だったのはチャレンジすることやその過程でした。データの記録は農家一人ひとりの意識が向上し、みんなで同じ品種を新

部長は「助成金で試験栽培を行う以上、収量や生育状況、開花日などのデータ調査も大事だと思っていました。継続して取り組むことやデータの裏付けに基づいた結果を実感したことで、農家の意識改革にもつながりました」と振り返ります。

ケーションが増え部会内のつながりも強くなる。

「PCお竜」は品種の特徴から技術の差が生まれにくいとされ、1年目の栽培でも一定の反収が期待できます。「栽培技術のハードルが下がったことで、ナス栽培への間口が広がってきています。後継者不足の中で新たな担い手育成のきっかけになる品目になればうれしいですね」と松田部長。大月町のさらなる産地活性化に向けて部会全体で新品種「PCお竜」の栽培を続けていきます。

PCお竜収量調査用記入シート
2021 令和3 9月

日	月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	

試験栽培中に収量を記入する調査シート



花には開花日を記入したタグをつけて生育状況を管理。

総会では県や町の関係者を含んだ勉強会も実施。



自己改革実践中

JAグループ高知では、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を実現するため、さまざまな自己改革に取り組んできました。平成27年度に「県域担い手サポート連絡協議会(以下、協議会)」を設立し、翌年度から全国のJA組織と連携した体制のもと県内の担い手農業者を対象に助成事業(県域企画応援事業)を開始しました。平成31年度以降は多様化・高度化する担い手のニーズや課題に、より迅速かつ的確に対応するため事業内容を再整備し、JAグループ高知独自の助成を実施しています。
「県域企画応援事業」では新規就農者や次世代担い手の育成支援、地域農業を支えるJA出資法人への支援、また労働力不足対策への支援などを行っています。
協議会設立から8年で助成した総額は約8億6千万円。環境制御装置の普及や新規就農者の育成、新品目・新技術の試験研究などに広く活用されています。令和5年度の県域企画応援事業は、「新品目・新技術・新作業等導入支援事業」「食農教育活動支援事業」などの、全7事業で地域農業をサポートしています。
(注)令和5年度の事業申請の受付は終了しています。令和6年度も必要な支援策が講じられるよう事業を組み立てる予定で、詳細について現在協議中です。

県内の農業分野における多様な課題解決に向けて、農業者を助成事業でバックアップする「県域担い手サポート連絡協議会」。地域農業の発展に向けてあらゆる活動に広く活用されています。今回の特集では、これまでの活動実績と、助成事業を活用しながら意欲的に活動する担い手農業者等を紹介いたします。

JAグループの強みを生かしたサポート

これまでの主な活動実績

事業名	主な事業内容	助成総額
高知県版アグリシードリース事業 (平成28年～令和3年度) ※令和3年度で事業終了	規模拡大等によりコスト削減に取り組む農業者に対し、農機具等の導入にかかるリース料への助成。環境制御機器類や、ニラそり機の普及拡大などへの支援。	約2億8,000万円
新品目・新技術・新作業等導入支援事業 (平成28年～令和4年度)	異常気象や連作障害に対処する作柄安定技術の導入や、将来的に産地にとって有望な品目の発見・選別や作型のモデルケース作りなど新品目・新作業等の導入にかかる経費への助成。 ●新品目：累計53品目の試験導入を支援。●新技術：累計124品目169技術の実証実験を支援。	約7,200万円
集落営農組織等事業活動支援事業 (平成28年～令和3年度) ※令和3年度で事業終了	担い手の減少や高齢化に伴い、耕作放棄地等が増加している中、地域農業の維持・活性化を図っている集落営農組織・法人等の育成および営農活動への助成。●累計220組織に対し支援。	約5,400万円
担い手育成支援事業 (平成28年～30年度) ※平成30年度で事業終了	新規就農につながる研修生の受け入れ先となる農業者への助成。 ●累計266人の研修受け入れ先を構築し、新規就農者の育成を支援。	約7,100万円
新規就農支援事業 (平成28年～30年度) ※平成30年度で事業終了	営農技術が確立されておらず、経営・収支が不安定になることの多い新規就農者への助成。 ●累計120人の新規就農者に対し就農時の負担を軽減する支援。	約1,200万円
食農教育活動支援事業 (平成31年～令和4年度)	子どもを対象とした食農教育に取り組むJA・JA出資法人及び組合員組織に対し、食農教育活動に必要な経費への助成。 ●食農教育にかかる農業体験学習活動：延べ121校 ●食農教育に関するイベントの実施：延べ111回	約2,200万円

東大野集落営農組織(安芸地区)
飼料用稲として品種「にこまる」導入



昨年度は3.1ヘクタールで172ロールを収穫。今年度は規模を拡大し6.1ヘクタールで栽培。

支援でつながる次世代への思い

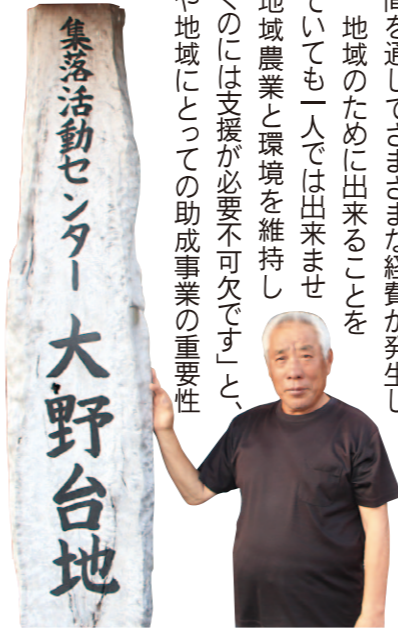
田野町と安田町にまたがる標高約80mの大野台地。空と海に囲まれた田の緑が美しい景観を次世代へつなげるために、集落活動センター大野台地に所属する東大野集落営農組織は「新品目・新技術・新作物導入支援事業」を活用。令和4年度は、増収に向けて品種を「にこまる」に変え、3.1ヘクタールで飼料用稲の栽培に取り組みました。

「にこまる」の栽培では、使用する農薬の選定や株間を広げる疎植、水管理の徹底など、さまざまな工夫で前年度品種よりも増収することに成功。耕畜連携の取り組みにより、WCSとして地域の肉用牛生産者に供給することで、古くから畜産で発展してきた中芸地域の畜産基幹産地の維持にも寄与しています。

助成金は種苗代その他、定植や収穫にかかる作業労働費など、さまざまな経費に活用しました。同組織の会長である坂本勝明さんは「組織運営には年間を通してさまざまな経費が発生します。地域のために出来ることを考えていても一人では出来ません。地域農業と環境を維持していくのには支援が必要不可欠です」と、組織や地域にとっての助成事業の重要性



細断型ホールクローブ収穫機
他の助成事業も活用しながらWCS用機械も再整備。



坂本勝明会長

「助成事業が組織の活動力の底上げとなって、地域全体が潤ってくる。支援のおかげで、この台地も後世へつないでいくことができます。ずっと大切に続けたい美しい場所です」。今年度は栽培規模を拡大し、さらなる増収を目指しています。地域農業の発展が、次世代へ残す大切な財産につながっています。

※ホールクローブサイレージ(WCS)
稲の米粒が完熟する前に、穂と茎葉を同時に刈り取りサイレージ化した発酵粗飼料。



大野台地内ではオクラやショウガ、ジャガイモなどの栽培も盛ん。



次世代へつなごうたい美しい大野台地(写真提供:田野町)

四万十町立窪川小学校(高西地区)
「お米体験学習事業」の実施



窪川小学校 学校教育目標「未来につながる今を全力で生きる子」～自分の伸びを実感できる児童の育成を通して～



窪添泰平校長と小出亜沙美栄養教諭

「食」と「農」の体験から
子どもたちの感性を育成

四万十町立窪川小学校は「食農教育活動支援事業」を活用し、総合的な学習の時間の中で、もみまきから田植え・稲刈り体験、そして収穫した米を使用した調理実習などを年間スケジュールで実施。食事の重要性や地域の食文化、食への感謝の心の育成など、食育の視点から各学年へ向けた指導を意欲的に行っています。

毎年、5年生と保護者、教職員を対象に実施している「お米体験学習事業」では、JAを通じて協議会へ助成金を申請。苗代や協力してくれる地域の生産者へのほ場の作業・管理委託料などに活用しています。

「当たり前前に食べているお米が種もみ

楽しい!!



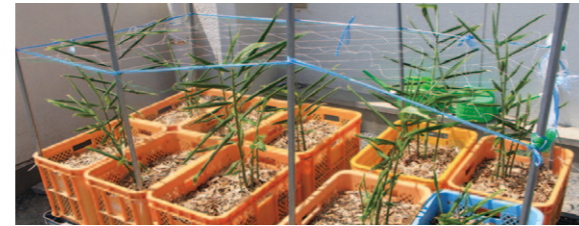
令和4年度
お米体験学習事業の内容

- 5月6日 もみまき
- 5月中旬 稲の生育観察・米作りについてインタビュー
- 6月7日 田植え体験
- 10月7日 稲刈り・千歯こき体験
- 1月13日 試食会(ごはんのみそ汁)
- 1月18日 調理実習(巻き寿司作り)

「体験でさまざまな人と関わり、学びから自分の成長を実感して欲しい。それには食に関する取り組みは欠かせません。何より地域の方々の協力があつてこそできること」と、窪添校長は話します。「食」とその根源である「農業」を身近に感じながら育つ子どもたちの成長を、これからも地域が一体となって支えます。



田植え体験の様子。初めての田植え経験にドキドキ。



生姜栽培研究会や営農指導員と一緒にコンテナショウガも育てています。

協議会は「県域企画応援事業」のほか、担い手や地域のニーズに応じた個別支援にも取り組み、JAグループの強みを生かしたより細部に渡る支援を展開しています。令和5年度末には協議会の取り組みの総括を行います。令和6年度以降も担い手農業者等の各種課題解決に向けて、JAグループ高知が一体となり必要な支援策を講じられる体制を維持し、県内担い手農業者等への支援を続けていきます。



- 1 親子あぐりスクールによる食農教育
- 2 肥料散布機…農業機械導入による新技術の波及
- 3 事業を活用しながら新たな産地化を実現したグリーンレモン
- 4 「ごはん・お米とわたし」作文・図画高知県コンクールの実施



JAの役割を再認識し
事業に反映していきます



「県域担い手サポート
連絡協議会」委員
青木 厚林
JA高知県代表理事専務

これまで農業現場のさまざまな課題解決へ向け、新規就農者の育成、担い手農業者の反収向上や農作業の省力化、食農教育活動などへの直接的な支援や、JAがより担い手農業者への関わり合いを強化していくための体制整備などへ支援を行ってきました。新規就農者の定着や生産部会組織の活性化などへの働きかけにより、共同出荷販売の強化や新たな産地形成などさらなる県内農業の活性化にもつながりたいと思います。

現在も農業を取り巻く環境は日々変化しており、事業間が一体となって担い手農業者の今ある課題やご要望をお伺いし、それに対してJAグループとしてどういった支援を行えるか、JAの役割を再認識しながら今後も事業に反映していきます。そして、この事業を通して「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現へ向け、皆さまの地域と営農、そして暮らしを豊かにできるよう引き続き取り組んでまいります。

令和5年度 高知県秋季果実 展示品評会

県内各地の果樹生産者が手塩にかけて育てた新高梨、水晶文旦、みかん、栗を多数出品し、農林水産大臣賞をはじめとした受賞品を多数展示します。展示品の予約販売や即売コーナーなどをご用意してお待ちしております。

開催日 10月7日(土)
 予約販売 10時～14時
 引き渡し 14時～16時

場所 とさのさとAGRI COLLETTO
 1階イベントスペース(高知市北御座10-10)

主催：高知県果樹研究協議会



れいほく 米ナスフェア 2023

9月1日(金)～30日(土)までの1か月間、高知市内8店舗の飲食店とコラボした「れいほく米ナスフェア」を開催中です。れいほく園芸部米ナス部会による、地域で栽培される旬の農産物を“食べて、知ってもらう”ための企画で、今年で19回目を迎えます。期間中、各飲食店では米ナスをメインに、嶺北産の野菜をふんだんに使った料理が提供されます。生産者がまごころ込めて栽培した米ナスとシェフのコラボレーションをお楽しみください!

公式参加店舗は、JA高知県のホームページまたは公式Instagramをご覧ください。

2023 SEPTEMBER

JA高知県



トップニュース

れいほく花き部会 園芸博覧会受賞を知事に報告

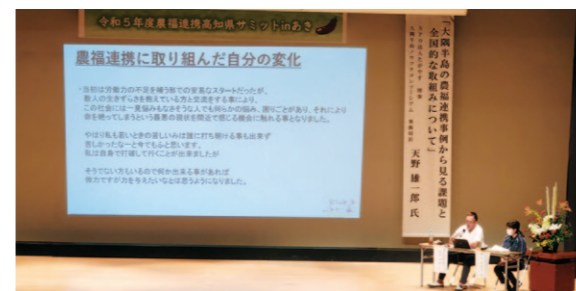
JA高知県れいほく花き部会は7月4日、県庁に濱田省司知事を訪ね、オランダで開かれた「2022年アルメーレ国際園芸博覧会(フロリアード2022)」で部会員が受賞したことを報告しました。フロリアードでは、同部会の上田裕介さんが「みもり」を出品し、「フロリアード エクセレンス アワード2022」を受賞。藤原厚志さん、美鈴さん夫妻が「ノーブルアイカ」を出品し、一般投票10品種に選ばれました。「みもり」「ノーブルアイカ」とともにロータスリリーの品種で、ピンクのスカシユリの突然変異により生まれた「ノーブル」の派生品種。薄緑色の花弁などが特徴で、同部会が世界で唯一生産しています。

今後の生産等について説明した同部の畠山祐樹部会長は「どう売っていくか検討している。親しんでもらえる花として、県内にもどんどん出荷していきたい」と強調しました。



「みもり」「ノーブルアイカ」を手に濱田知事を囲む部会員ら

農福連携高知県サミットinあき



サミットの様子

JA高知県、安芸市、県、福祉機関でつくる安芸市農福連携研究会は8月3日、同市で「令和5年度農福連携高知県サミットinあき」を開きました。県内の生産者、行政、JA、関係機関など約110人が参加。講演会や体験・事例発表を通じて、農業と福祉分野の理解と関心を深め、連携の大切さを共有しました。

講演会では、NPO法人たがやすの理事を務める天野雄一郎さんが「大隈半島ノウフクコンソーシアム」や「ノウフクJAS」などの取り組みを紹介しました。また、体験・事例発表では、せんとうふあーむ代表の仙頭明伸さんが支援側が感じたことなどを発表。「農福連携は良い活動だが難しい活動でもある。今後取り組みが進めばさらにより環境になっていくのでは」と話しました。

同研究会会長を務めるJA高知県安芸地区営農企画課の市川和加課長は「サミットを通じて農福連携の理解が深まり、安心して暮らせる社会が安芸市から日本中に広がることを期待している」と強調しました。

令和5年産の早期米進発式

JA高知県は7月28日、高知市五台山で令和5年産米の進発式を開き、関係者ら約20人がテープカットや試食で新米販売のスタートを祝いました。

早期米の県内トップ出荷となった品種は「南国そだち」。7月16日から収穫が始まり、21日に265袋が初出荷されました。「南国そだち」は、程よい甘さとさっぱりした味わいで、冷めてもモチモチしていることが特徴。品質、収量とも平年並みを見込んでいます。

秦泉寺雅一組合長は「天候に恵まれて順調に育ち、品質のよい米ができています。農地を守り、再生産できるように多くの人に県産の米を食べて欲しい」と挨拶しました。

早期米の卸業者への販売価格は玄米60kgが「南国そだち」と「よき恋人」が1万3,200円、「コシヒカリ」が1万3,800円でインバウンドや外食需要の回復を受け、昨年より1,000円上がりました。順次集荷が始まり、リレー出荷で新米を届けます。



新米を積み込んで出発するトラック

2023年9月・10月は

JA直売所のご利用が 15% おトク!

詳しくはこちら <https://www.cr.mufg.jp/jafarmmarket2023/>

JAカード限定!

JA直売所(JAカード5%割引実施店舗)で、対象期間中にJAカードをご利用いただくと、ご利用金額合計の10%相当分^{*}をポイント還元!

いつもの5%割引と合わせて、15%相当おトクにご利用いただけます!

※還元ポイントの上限は2,500ポイント(10,000円相当)です。

期間限定キャンペーン

JA直売所のご利用金額の **10%相当** をポイント還元!

対象期間 2023年9月1日(金)～10月31日(火)

還元時期 2024年1月

対象期間のJA直売所でのご利用金額合計の10%相当分から還元ポイント(4円で1ポイント)を計算します(小数点以下は切り捨て)。還元ポイントの上限は2,500ポイント(10,000円相当)です。

※ポイントは「JAカード わいわいプレゼント」または「JAカード ゴールドポイントプログラム」でご利用いただけるポイントです。※還元金額はポイント交換でキャッシュバックをご選択された場合の金額(1ポイントを4円換算で交換)を記載しています。

いつもおトクな JAカード特典!

JA直売所のご利用は 請求時 **5% 割引!**

※一部対象外の店舗がございます。

※本誌記載の情報は2023年4月時点の内容です。特典については予告なく終了や内容の変更を行う場合がございます。※JAビジネスカード、JAコーポレートカード、JCBブランドのJAカードは本特典の対象外です。※JAカードでのお支払いが対象です。電子マネーやコード決済等での支払いは、JAカードを登録されている場合でも本特典は適用されません。

ナクカツ!

vol.30

安芸地区の
あんなこと、こんなことを再発見

育てる喜び、 地域特産の ナスを身近に



生産者ならではの!
変わった形の
ナス紹介も!



JA高知県安芸地区、生産者、安芸市、安芸農業振興センターでつくる安芸市施設園芸品消費拡大委員会は毎年、安芸市内の小中学校でナスの収穫体験や生産者による出前授業、料理講習会や試食会を開催しています。

冬春ナスの生産量日本一を誇る安芸地区では「高知ナス」を251ヘクタールで栽培し、県内の9割強を占めています。収穫体験は、地元児童に農業の魅力を伝えるとともに、地域特産の高知ナスを身近に感じてもらい、農業への関心を高めることを目的に開催。今年は7校154人の児童らが授業を通じて、地域農業に触れました。

安芸中学校1年生



ナスやピーマンの定植と支柱立て作業

大切に
育てよう

苦戦中



誘引作業



料理講習会

川北小学校3年生



大きいの
見つけた!

ナスの収穫体験



斬新な盛り付けのナスカレー

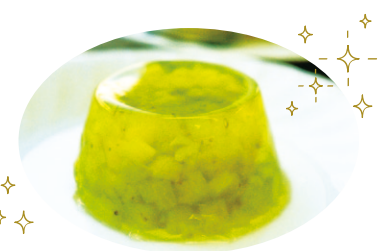


ナスカレーの試食

安芸第一小学校3年生



生産者による出前授業



涼し気なナスゼリー



どんな味が
するかな?

ナスゼリーの試食

安芸市施設園芸品消費拡大委員会は、「ナスマダムが作る〇〇〇」と題してYouTubeでレシピ動画を発信中!
今回の出前授業でも紹介しました。ぜひ皆さんもご視聴ください!



『家の光』

食と農から始まる。
JAグループの
ファミリー・マガジン



“協同の心”を育む家庭雑誌として、大正14年に創刊。JA組合員をはじめ地域の人々の暮らしに役立つ情報を掲載しています。

『家の光』は「協同の心を家庭で育む」を原点に、「食と農」「暮らし」「協同」「家族」という4つのテーマを大切にしながら、「人・組織・地域の幸せづくりをめざす農協運動」の“底力”となる記事づくりをコンセプトとしています。また、「人生100年時代をいつまでも健康で元気に生きていきたい」という読者の願いを後押しできる内容を心掛けています。昨年の9月号では、女性部れいほく地区「牛のうどん屋さん」の取り組みを紹介しました。JAの空き店舗を利用したカフェをオープンし、大学生の合宿の食事作りを請け負うなど地域内外の交流拠点となっています。JA女性組織をはじめとした女性の皆さまが地域を元気にしている事例を、今後たくさん掲載していきたいと思ひます。



家の光編集部
山本樹 編集長



昨年の9月号「きらりハーモニー」で紹介された、女性部れいほく地区の「牛のうどん屋さん」の記事

『地上』

農業・地域・JAの
リーダーのための
オピニオン誌



地域農業の担い手やJA青年部員、JA役職員などを対象に、昭和22年に創刊。日本の食料・農業・農村を巡る情勢や、社会・経済の動向を反映した企画で、農協運動に参加・参画する仲間づくり、豊かな地域づくりに役立つ記事を提供しています。

高知県青年連盟の役員会でも『地上』を活用した学習会を実施し、記事を読んだ感想・意見を発表するなど発信力を磨いています！

『地上』は、JA 青年組織盟友や JA 役職員の“不断の学習活動”を促し、活用していただくことを意識しています。目次には、内容をカテゴリー分けにし「個人として今知りたいこと」「青年組織盟友同士で学びたいテーマ」を見つけやすいようにしています。また、「話し合ってみよう」コーナーには、グループワークで活用していただける議題を提案しています。共通の知識・話題を基に、1つのテーマについて仲間同士、あるいは盟友とJA役職員が話し合うことで、自分一人では知り得なかった新たな気づきや仲間の思いに触れていただきたいと思います。学習会というと堅苦しさがありますが、みんなで話し合ってみるとリラックスして望めます。そんな学習活動が各地で行われることをイメージしながら、企画制作しています。今後ともご活用をのほど、よろしくお願いいたします。

編集長に聞く！

『家の光三誌』の読みどころ

JAグループ・家の光協会が発行する、暮らしや生活に役立つ情報誌『家の光三誌』。『家の光』『地上』『ちゃぐりん』の各編集長が記事づくりのポイント、雑誌の活用のねらいなどをご紹介します。

『ちゃぐりん』は、子どもたちが楽しみながら、食べ物や農業、自然について学べる食農教育雑誌として、昭和39年8月に『こども家の光』として誕生しました。今年で60年を迎え、長い歴史を経た雑誌として子どもたちの明日を照らすような存在でありたいと願っています。

子どもから大人まで幅広く人気があるのが、主人公の成長や苦悩、困難を乗り越える姿を描いた「いのちの歴史」。今年の4月号では、高知県出身の植物学者・牧野富太郎を紹介しています。4月から始まったNHK朝の連続テレビ小説『らんまん』の主人公・榎野万太郎のモデルである、富太郎の生涯や植物学に対する情熱、研究の成果などを分かりやすく紹介しています。

『ちゃぐりん』には、価値あるメッセージや学びがたくさん詰まっています。ぜひ、子どもたちと一緒に読んでいただき、子どもの成長と大きな夢を持つ力を育ててください。



まんがで子どもたちにも分かりやすく伝えてくれる「いのちの歴史」。

ちゃぐりん編集部
五味千代美 編集長



『ちゃぐりん』

JAの子ども雑誌



農家の子ども向け月刊誌として創刊。誌名『ちゃぐりん』は、英語のChild(子ども)、Agriculture(農業)、Green(みどり・自然)から名付けられました。

家の光は年間購読(前納)がお得です！

誌代1年分を前納すると、普通月号1カ月分が無償となります。また、家計簿など特別付録がついた『家の光』12月号・1月号の購読もオススメです。

年間購読期間
12月号(11月1日発行)～翌11月号(10月1日発行)

	年間定価合計	無償分	前納誌代
家の光	9,411円	629円	8,782円
地上	7,540円	618円	6,922円
ちゃぐりん	6,156円	492円	5,664円

※原則として、年間予約購読(前納)の中途解約はできません。
※解約手続きがない場合は、自動継続となります。



地上編集部
上床龍吾 編集長



「農's days降っても、晴れても」では、女性生産者を取材。令和3年9月号で、幡多地区の柴美月さんが紹介されました。



12月号
第1・第2
別冊付録



申し込みは、お近くの支所窓口へ



女性部レシピ
うちんくの台所

仁淀川地区 編



鮎寿司



【材料・2人前】

- 米……………2合
- 鮎……………2匹
(小さければ3匹)
- ① 砂糖……………50g
- 酢……………50cc
- ② 塩……………4g
- 砂糖……………40g
- 酢……………36cc
- ゴマ……………少々
- ショウガ……………少々

【作り方】

- ① 鮎は開いて骨を取り、塩を振って一晩なじませておく。
- ② 米を炊く30分位前に①で甘酢を作り、鮎を漬ける。
- ③ 米が炊き上がったらゴマとショウガ、②を混ぜて酢飯を作る。
- ④ 酢飯を2個のにぎりにして形を整え、鮎をのせる。

JA高知県女性部コスモス地区吾川支部

①から 藤原 陽子さん、藤原 多津子支部長、
中内 泰子さん、谷内 富士子さん



レシピは、HPからも
ご覧になれます。
ご活用ください！

吾川は
ぜんまいの産地です。
「ぜんまい白和え」を
ぜひ作って
みてください。



ぜんまいの
白和え

白和え

【材料・2人前】

- 乾燥ぜんまい…50g
- みりん……………適量
- ① 砂糖……………大さじ1
- 濃口しょうゆ…大さじ1
- 豆腐…半丁
- ② 砂糖…20g
- 塩…1.5g
- ニンジン…適量

【作り方】

- ① 乾燥ぜんまいは水から湯がき、沸き上がったら弱火にして5分煮る。湯が冷めたら水を入れかえ、一晩浸けておく。
- ② ぜんまいを食べやすい大きさに切って油で炒め、①で味をつけて荒熱を取る。
- ③ すり鉢に水切りした豆腐と②を入れてすり、②のぜんまいと、千切りして柔らかくなるまで湯がいたニンジンを加えて混ぜたら完成。



Living with Flower vol.30
～花のある暮らし part2～

高知県産のみもり、グロリオサ、ヒマワリをメインに、リキウソウやミスカンサス、ロベなどのグリーンを織り交ぜたアレンジメント (写真は5,000円)

今年で開業50周年を迎える「フラワーポケットラブリ岡生花店」。四十町町のスーパーマーケット内に店を構え、長年地域に寄り添い続けています。フラワー装飾技能士1級の資格を持つ森稚子さんは、母親からこの店を受け継ぎました。市場で花を選ぶ時から、その花を気に入ってくれそうなお客様の顔が浮かぶと言います。地域に密着している様子がうかがえます。町の葬祭場の装飾も多く請け負い、「その人に贈る最後のお花なので、きれいに仕上げたい。最後の時をきれいにあげられるのは幸せな仕事なのかもしれないですね」と柔らかく微笑みます。「グリーンは脇役ですが必要不可欠で、多く入れることによって花が際立って映えるんです」と、アレンジの際は葉物の扱いを重要視している森さん。観葉植物も多く取り揃え、最近では若い世代にもインテリアとして人気です。「コロナ禍で一輪でも花を家に飾る人も増えて、若い人も買いに来てくれます。私自身お花を貰うとやっぱりすごく嬉しい。その気持ちを忘れずこれからも末長く続けていきたいですね」。

四十町町では、飲食店などのオープンも続き、開店祝いの花を作る機会も増えたとのこと。地域の歩みに今後も変わらず、花を添えて寄り添います。



フラワーポケットラブリ岡生花店
高岡郡四十町古市町2-12
みやた窪川店内
Tel. 0880-22-2721
営業時間 9:00~17:00
休業日 1月1日~4日



染色された花でつくる
色彩鮮やかなドライフラワー



新築のインテリアとしても人気の
観葉植物も取り揃え豊富



店先では花苗も多数扱っています

脇役でも必要不可欠なグリーン。
多様なグリーンを効かせることで
花がより魅力的に映えます。



クイズ正解者の中から
抽選で計 20名様
 応募締切は 令和5年 **10月5日**
(当日消印有効)
 プレゼントの当選者発表は発送をもってかえさせていただきます。



応募フォームから
 ご応募できます。

出題：ニコリ

1	6			14	17	
	D					
2			12			B
3		9			18	21
		10		15		
4	7		13		19	
	8	11			20	
	C					
5				16		A

二重マスの文字を、A～Dの順に並べてできる言葉は何でしょう？

答え

A	B	C	D
---	---	---	---

郵便はがきに、①パズルの答え ②住所 ③氏名 ④年齢
 ⑤職業 ⑥電話番号 ⑦今月号で良かった企画 ⑧ご意見や感想、つぶやき、川柳などのメッセージやイラスト
 ①～⑧を必ずご記入のうえ、下記住所までご応募ください。

応募先
 〒781-0303
 高知市春野町弘岡下中央 2454番 15
 JA高知県「こうぐり」プレゼント 係



8月号の答え[サーフィン]

※読者の皆様からいただいたお便りの個人情報は、当選者へのプレゼント発送に利用させていただきます。
 また、お便りの内容を誌面に紹介する際に、名前(姓のみ)またはイニシャルを掲載させていただく場合があります。

ヨコのカギ

- 十五夜に飾る植物
- 帰り道のこと
- 葉はコアラの餌になります
- 2の3 ___は6
- 必要以上に子どもを甘やかすこと
- 糞(あつもの)に懲りて ___を吹く
- 発車 ___の新幹線に何とか乗り込んだ
- 奈良や和歌山がある地域
- 漢字で書くと竜胆。青紫色の花を咲かせます
- 台風 ___、よく晴れたね
- 吉永小百合さんの場合はサユリスト
- ml、mgの「m」
- お金を借りると付くことも

タテのカギ

- ボンベを担いで ___ダイビングを楽しんだ
- アンダー ___の左腕投手
- 収穫期の田んぼで金色に輝きます
- 陶磁器はここで焼き上げられます
- ___に敬老の日のプレゼントをもらった
- 「ギイー、チョン」と鳴く虫
- 陽(よう)の反対語
- 汁物をよそう食器の1つ
- 十五夜に楽しむもの
- ピラフにホワイトソースをかけて焼いたもの
- 父と母のこと



豪華なのに、リーズナブル!



〔土長地区〕「いち松」
土佐あかうし
ローストビーフ丼
 1,600円
(みそ汁・小鉢付)



土曜と祝日のみの海鮮丼。マグロ、サーモン、エビなど、店主が厳選した新鮮なネタが数種類味わえる！
 海鮮丼(みそ汁・小鉢付)1,300円
 ※ネタは時期や仕入れ状況によって変わる場合があります。



チキン南蛮、油淋鶏、トンカツ、焼き魚の4種類から選べるランチ。ボリューム満点で大満足!!
 日替わりランチ 900円
 ※写真はチキン南蛮

本山町にある老舗の鮪屋「いち松」にやってきたよ！
 店主の走出さんが目利きした鮮度抜群、こだわりの鮪が味わえると人気の店なんだ。
 オススメは、1日5〜6食限定のランチでのみ味わえる「土佐あかうしローストビーフ丼」。幻の和牛、土佐あかうしを使い、火入れの温度管理を徹底して、じっくりと調理された肉は柔らかく口どけも最高！ ご飯が見えなくなるほど敷き詰めたローストビーフに、オニオンリングと温泉玉をトッピング。店主こだわりの自家製タレをかけたら完成。温泉卵をくずしてお肉にからめて食べるのもおいしいよ！ 早いもの勝ちだから、事前に電話で予約するのがオススメだよ。
 4種類から選べる日替わりランチや海鮮丼(土曜・祝日限定)が味わえるほか、夜は目の前のカウンターで店主が握る鮪や、2階の座敷では囲炉裏を囲って肉や海鮮の焼き料理も楽しめるコチ！ 米や野菜など、できるだけ地元食材を使用した地産地消グルメを堪能してみてね〜♪



いち松
 高知県長岡郡本山町本山752-3
 TEL 0887-76-3667
 営業時間 昼 11:30~13:30(無くなり次第終了)
 夜 17:30~22:30(ラストオーダー22:00)
 定休日 日曜日

